令和6年度保健師ブロック別研修会
（関東甲信越ブロック）
令和6年8月30日（金）13:40～
新宿住友スカイルーム（新宿住友ビル）
47階Room５－７

シンポジウム
「能登半島地震における保健活動からの学び」

DHEATによる能登町の保健師支援の活動報告

茨城県保健医療部保健政策課
技　佐　　大竹　美記

本日の内容

1．DHEATとは
2．石川県　保健医療福祉調整本部　組織図
3．能登町の概況

出典：２と３茨城県DHEAT作成（福岡県への引継ぎ資料）
保健医療部保健政策課作成資料抜粋

4．支援チームの状況

出典：第２９回保健医療福祉調整本部会議資料抜粋

5．茨城DHEATの概要
6．能登町　保健医療福祉調整本部体制図
7．茨城DHEAT（保健師チーム）の活動
8．今後の保健活動に必要なこと

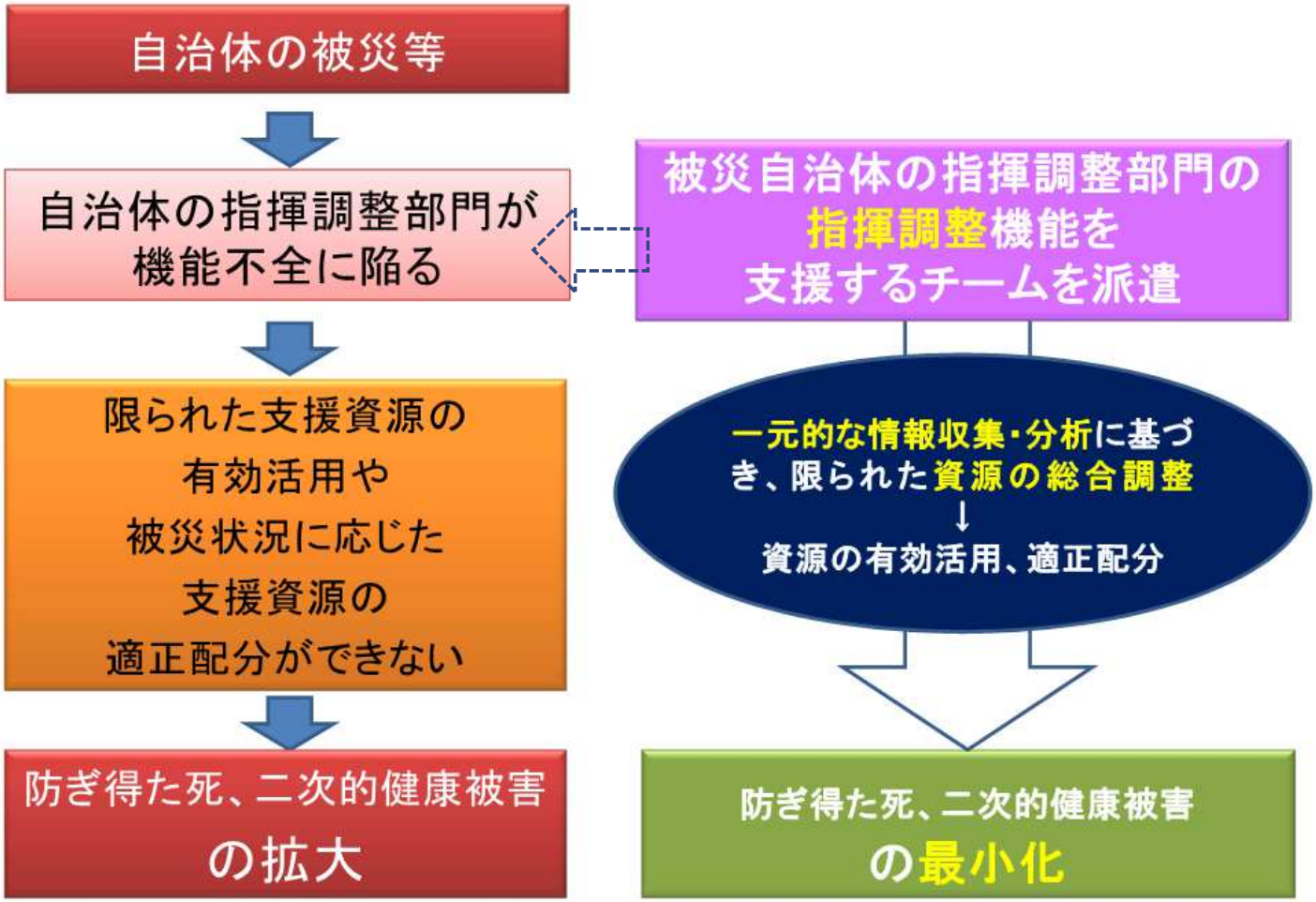
1　DHEATとは

保健所（保健医療福祉調整本部）を支援

災害時健康危機管理支援チーム

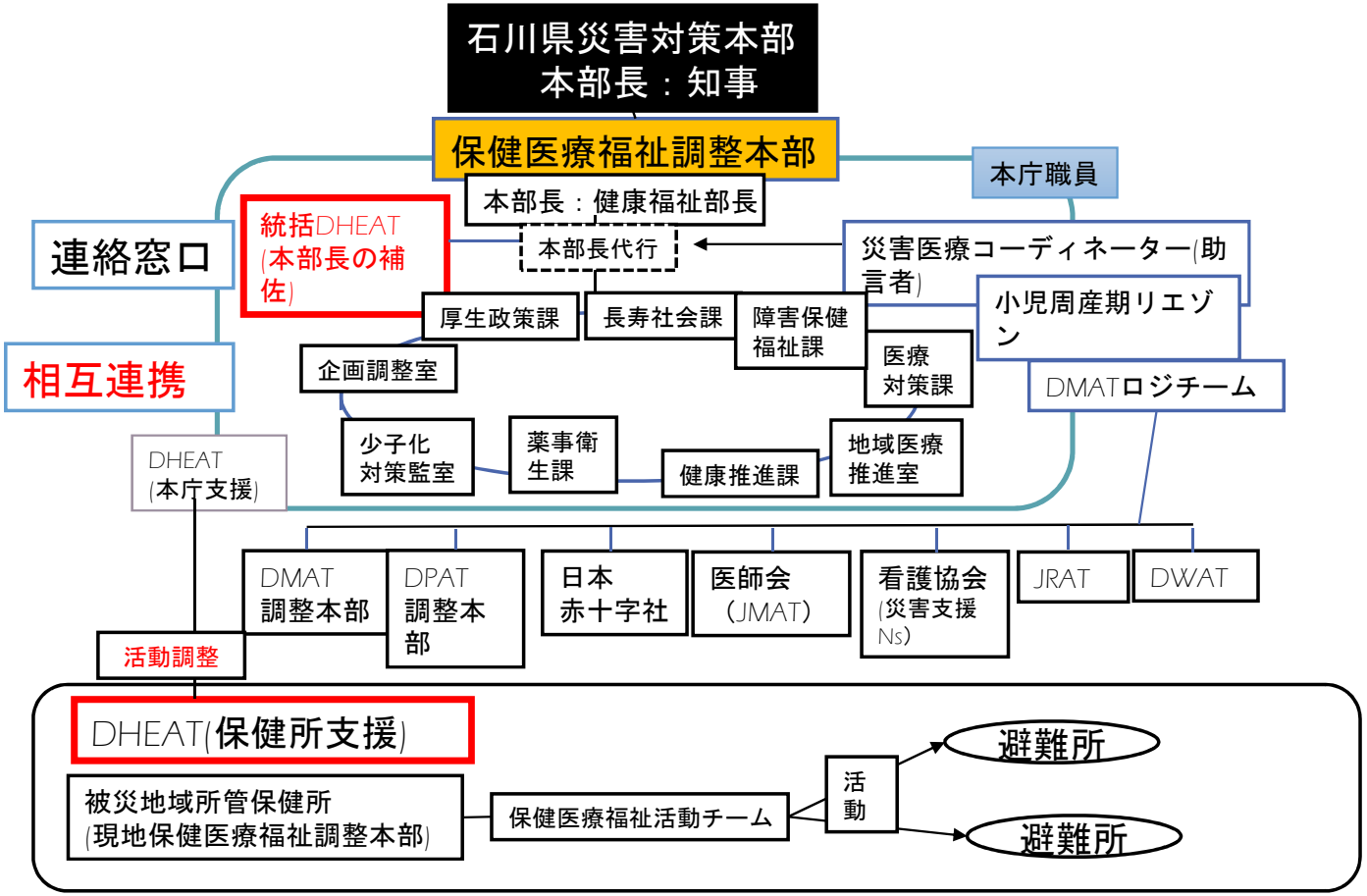
Disaster	（災害）
Health	（健康）
Emergency	（危機）
Assistance	（支援）
Team	（チーム）

1　DHEATの活動目的

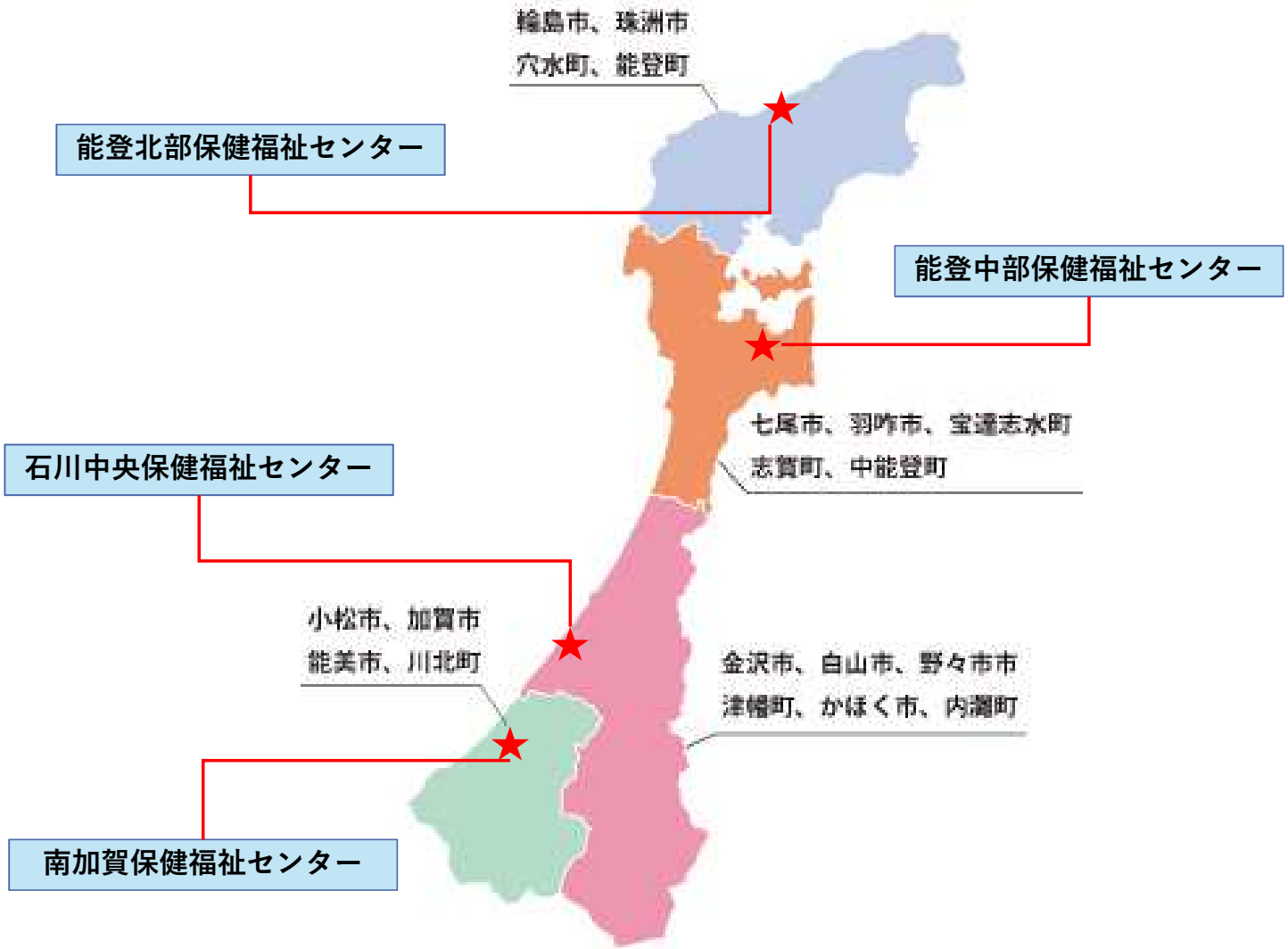


2　石川県保健医療福祉調整本部　組織図

統括DHEAT：石川県健康福祉部次長　○○○○　000-111-2222
ロジ：石川県健康福祉部健康推進課課長補佐○○　000-111-2222
DHEAT等シフト調整：石川県健康福祉部企画調整室課長補佐○○　000-111-2222



2　石川県二次医療圏と保健所地図



3　石川県鳳珠郡能登町　概況

町の概要

- 一時産業（漁業）を中心に発展したが、高齢化・人工流出が深刻になっている。
- 平成１７年に能都町・柳田村・内浦町が合併して誕生した。
- 産業分野では、豊かな自然を背景とした第１次産業が、町の基幹産業となっている。農業では、稲作をはじめとして、ブルーベリーや能登牛が特産品。漁業では、イカ釣漁業と定置網漁業が全国的にも有名で、定置網で獲られたブリは「宇出津港の寒ぶり」としてブランド化されている。
- 平成15年7月には能登空港が開港し、東京から1時間あまりで能登町に訪れることが可能となった。
- 平成１７年に鉄道廃線となり金沢方面との交通は国道２４９号線と珠洲道路による車移動が中心である。

● 人口・世代数（2024年1月）

	日本人	外国人	総世帯数
男性	７，１３９	１００	
女性	７，８８９	５９	
総数	**１５，０２８**	**１５９**	**７，２１８**

● 年齢分布（2020年統計調査）

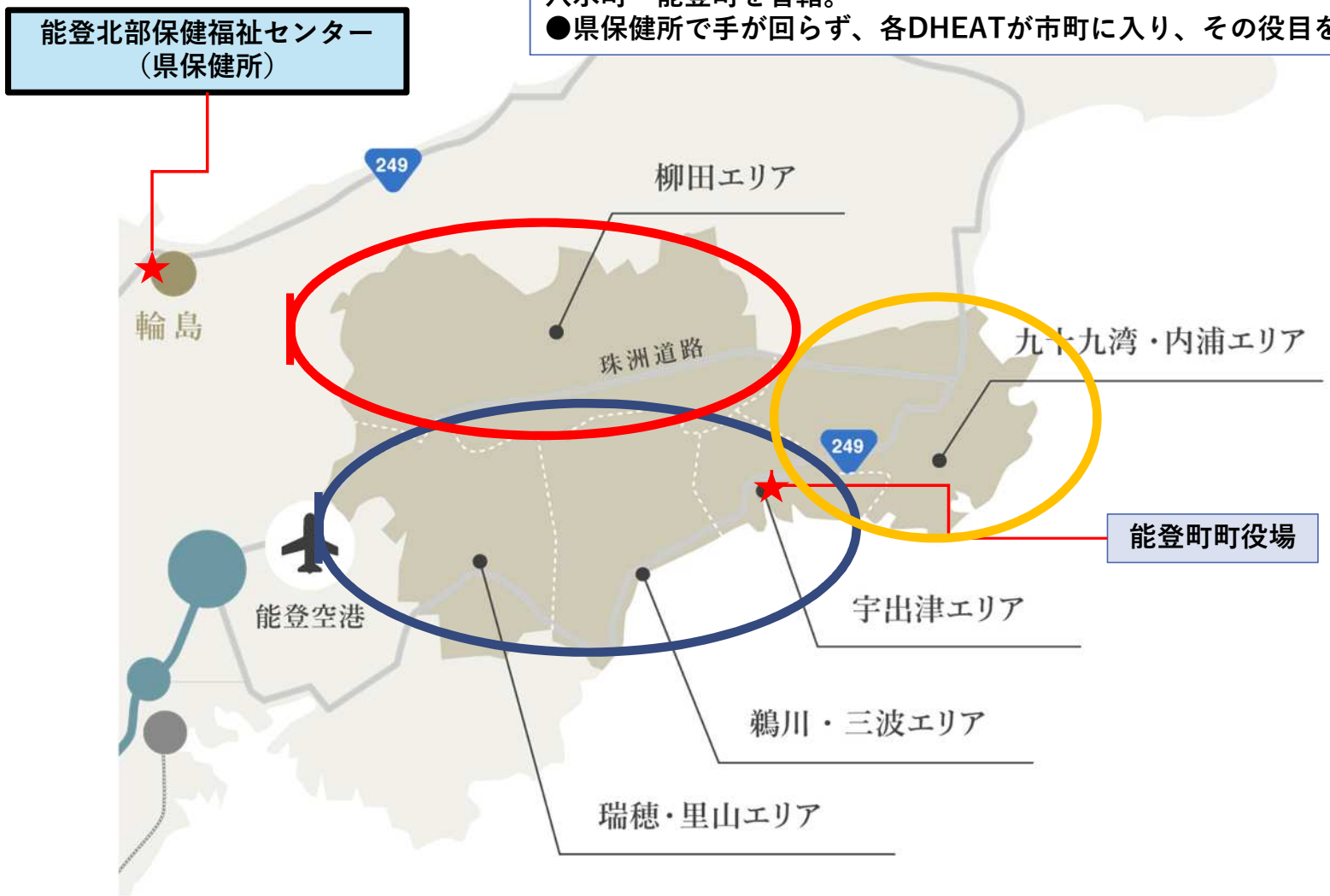
	15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢中位数	出生数	出生率	死亡数
能登町	1,154	6,621	7,910	65.2	65	3.3	339

国平均49.0

3　石川県鳳珠郡能登町　概況

地図

●輪島市内にある北部保健福祉センターが、県の保健所として輪島市・珠洲市・穴水町・能登町を管轄。
●県保健所で手が回らず、各DHEATが市町に入り、その役目を担っている。



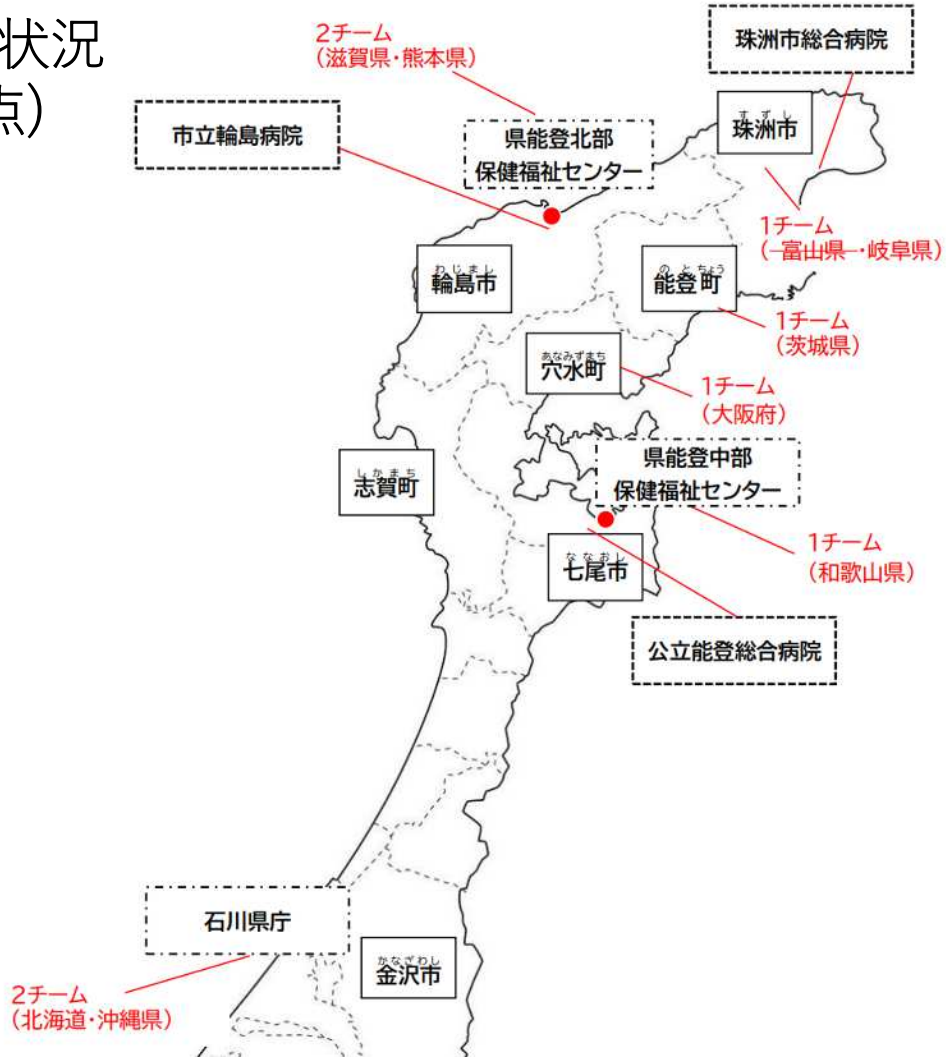
3　石川県鳳珠郡能登町　町役場の体制

町長　統括保健師：〇〇保健師　電話番号　　※町所属の保健師は８名。

- **健康福祉課**　**健康づくり・保健指導、社会援護、障害者福祉、児童福祉、子育て支援、保育所、老人福祉、国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療、民生・児童委員、地域包括支援センター**
- 総務課　**防災、減災**、国民保護
  人事、選挙、条例、規則、交通安全、防犯、行政改革、姉妹都市、ケーブルテレビ、広報
- 会計課　収入・支出審査、現金・有価証券の出納保管、決算
- 住民課　戸籍、住民登録、印鑑登録、国民年金 廃棄物の処理・資源化・減量化、
  畜犬登録・狂犬病予防、斎場・墓地
- 税務課　町税・納税相談、**罹災証明書発行**
- 建設水道課　**道路の建設・維持管理・占用許可**、河川の維持管理・占用許可、砂防、港湾、都市計画事業、
  都市公園の維持管理、町営住宅、建築確認、**災害復旧事業**
  水道、公共下水道、集落排水、浄化槽
- 農林水産課　農業・林業・畜産・水産振興、農林道、治山事業、漁港、**災害復旧事業**
- ふるさと振興課　商工業振興、観光振興、観光施設、イベント、特産品、、シルバー人
  材センター 、新エネルギー、国際交流、地域づくり
- 企画財政課　財政、企画調整、広域行政、**公共交通、**統計
- 教育委員会事務局・議会事務局

4　支援チームの状況

石川県　DHEAT派遣状況
（1.18時点）



4　石川県　支援チームの動員状況

	能登北部保健所				能登中部保健所		金沢以南				
							1.5次避難所	南加賀保健所		金沢市	石川中央保健所
	輪島市	珠洲市	穴水町	能登町	七尾市	志賀町	スポセン	小松市	加賀市		白山市
支援組織	輪島市保健医療福祉調整本部（輪島市役所）	珠洲市保健医療福祉調整本部（健康増進センター）	穴水町地域医療救護活動支援室（保健センター）	能登町保健医療福祉調整本部（能登町役場）	能登中部保健所		金沢以南保健医療調整本部：愛知県				
DHEAT	札幌市・静岡県	富山県	大阪府	福岡県	京都府		横浜市	山形県			
保健師	１４チーム ３６人	１３チーム ２６人	５チーム １３人	６チーム １２人	７チーム １３人	５チーム １０人	９チーム ３３人	２チーム ６人	５チーム １０人	３チーム ６人	２チーム ７人
支援看護師(人)	２２	１１	4	0	0		0				
DMAT	0	0	0	0	0		0				
JMAT	0	0	0	0	0		0				
日赤医療班	5	8	0	0	4		0				
DPAT	1	1	0	0	0		1				
JRAT	4	4	0	0	2		5				
DWAT											
薬局	7 モバイル１	0 モバイル１→0	7 モバイル０	7 モバイル0	３２						

20240222宮崎県DHEAT・石川県DHEAT作成

5　茨城DHEAT派遣の概要

班構成

医師（保健所長）１名、保健師２名、ロジ担当２名（薬剤師、獣医師、事務職）合計５名
※各班に応じて担当する役割は違う。（保健師２名は町の統括保健師及び保健師の支援）

派遣期間、日数

班	派遣期間	現地活動日数
1	1/6～12	6
2	1/11～18	7
3	1/17～24	7
4	1/23～30	7

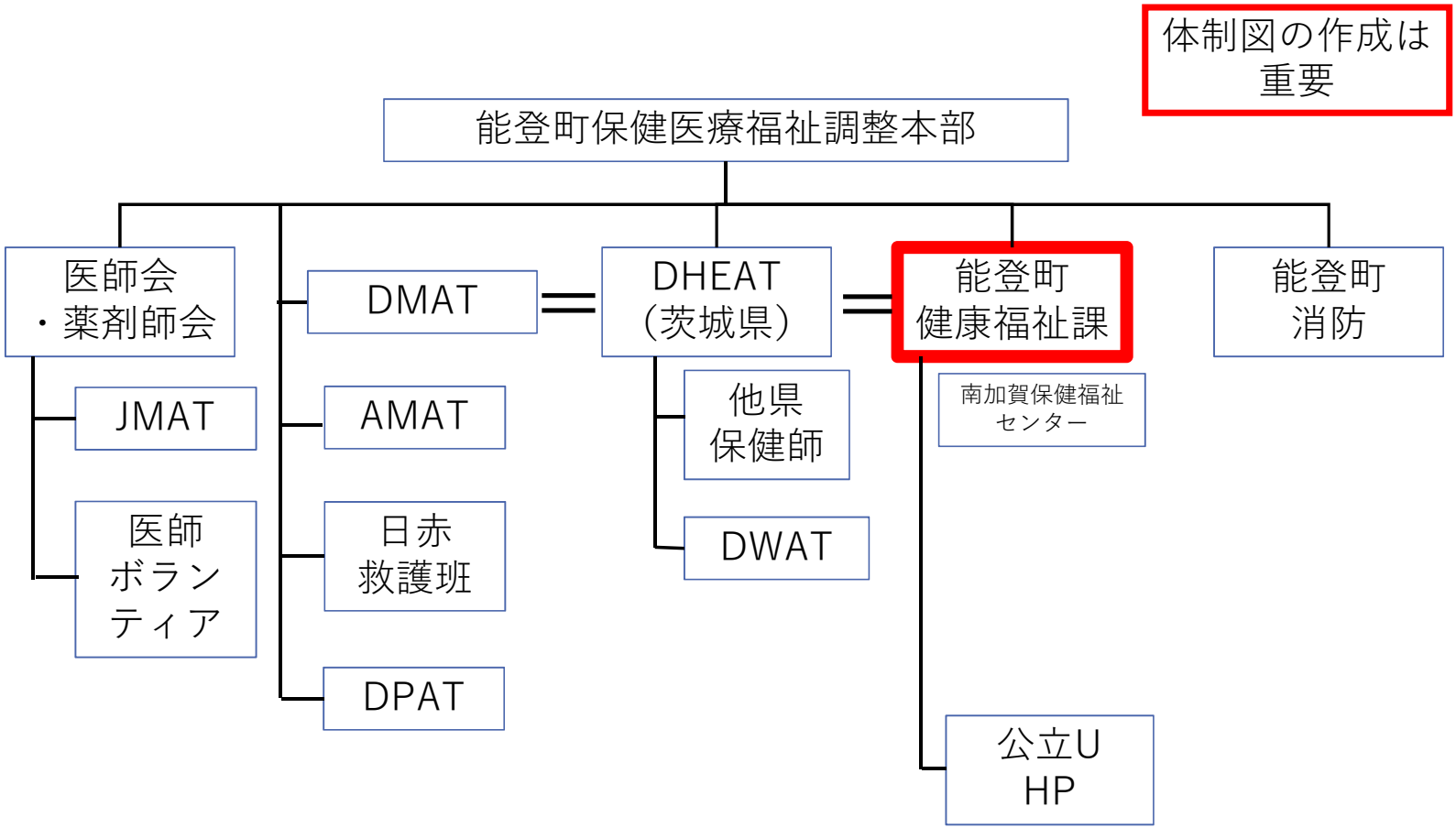
※前班の撤収日と次の班の現地入りを同一日とし、引継ぎを行う

各班の活動内容の概要

班	活動内容の概要
1	災害急性期の支援体制整備を中心に調整本部の活動拠点確保と、指揮命令系統の整理、能登町統括保健師のリエゾン支援、避難所における医療提供（薬剤処方等、診療）の調整、県や各支援チームと能登町との活動の調整
2	1班の活動を引継ぎ、避難所における個別支援者把握と併せ、1.5次及び2次避難所対象者への移動支援、保健師チームの業務調整、在宅避難者への訪問を検討、避難所における栄養マネジメントの検討、DMAT撤収を見据えた調整本部体制の検討
3	2班活動を引継ぎ、DMATからDHEATへの調整本部業務移行準備、保健師チーム活動の効率化支援、高齢福祉施設への外部支援者導入を実施
4	3班活動を引継ぎ、調整本部業務の能登町以降への調整、避難所における血圧の自己管理体制の整備、他県DHEATチームへの引継ぎ、通常業務移行へのロードマップ作成等を実施

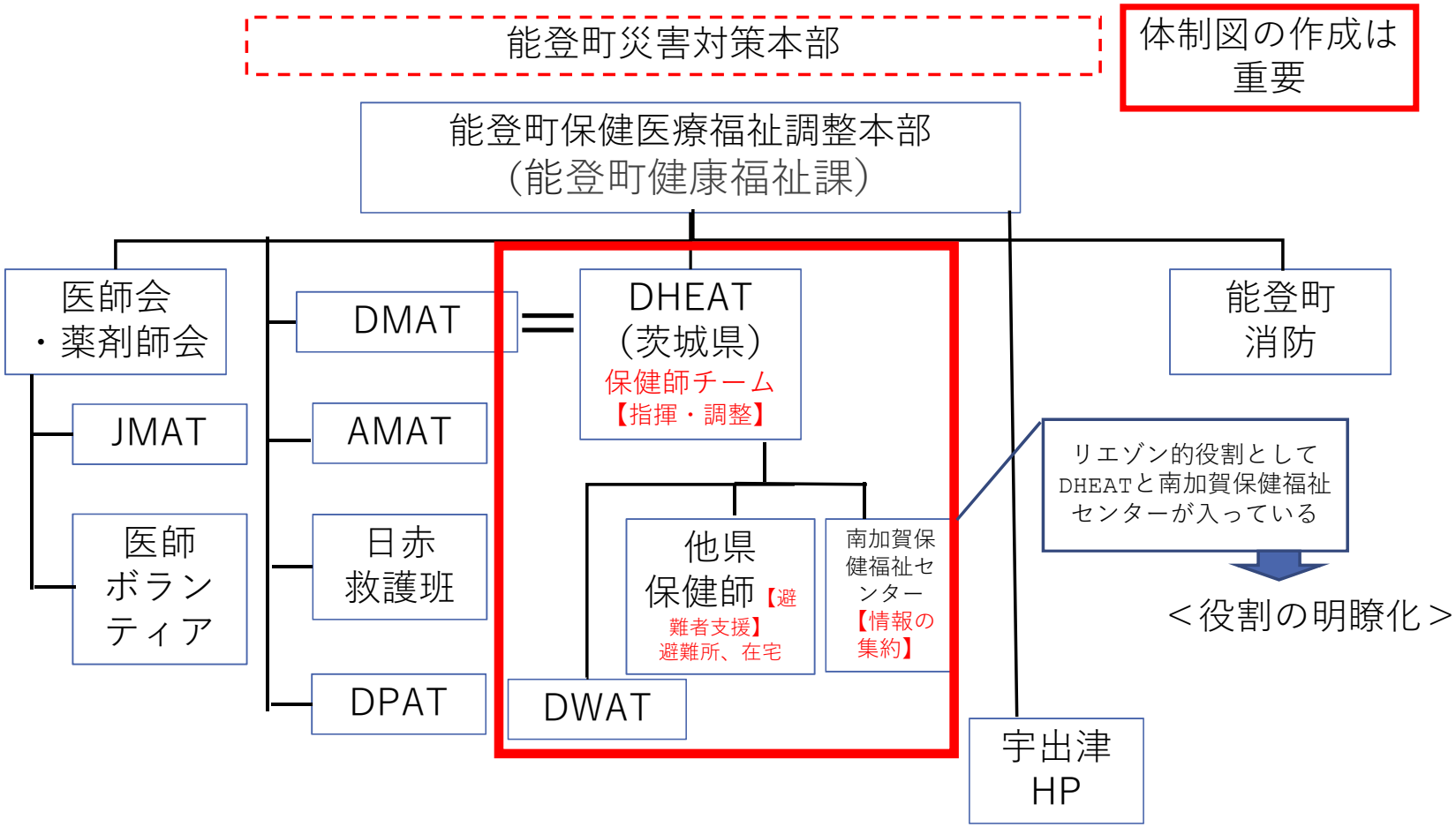
6　石川県鳳珠郡能登町　保健医療福祉調整本部体制図（1/11～）

DMAT主体の活動であったが、徐々に撤退。
DHEATへ主体を移行中。
医療/衛生用品を含む物資については、町の災対本部が一括して発注。



6　石川県鳳珠郡能登町　保健医療福祉調整本部体制図（目指す体制）

DMAT主体の活動であったが、徐々に撤退。（調整をするための体制図）
DHEATへ主体を移行中。
医療/衛生用品を含む物資については、町の災対本部が一括して発注。



7　DHEAT（保健師）の活動　～　保健師活動のポイント　～

班(月日) 項目	1班（1/6～12）		2班（1/11～18）		3班（1/17～24）		4班（1/23～30）	
現状	・DMAT主導調整本部設置、多くの診療所と薬局が閉鎖 ・日赤の薬剤不足（避難所巡回） ・避難者は定時薬切れ、感染症、体調不良有	・感染症の発生が増加 ・避難所運営者報告の集計がない ・災害対策本部はロボチャットで避難者数及び必要物品を把握	**・感染症発生が増加** ・1.5次、２次避難所への避難に向けた対応 **・支援チームの増加** **・在宅避難者の巡回を検討** ・避難の長期化による食生活や栄養の偏り、生活不活発病、メンタルヘルスの問題		・感染症発生が増加 ・1.5次、２次避難所への避難に向けた対応 ・町保健師による85歳以上の在宅訪問終了 **・75歳以上の在宅訪問実施中** ・避難の長期化による食生活や栄養の偏り、生活不活発病、メンタルヘルスの問題(避難所による健康課題、運営管理の差) ・大規模避難所の段ボールベッド配置開始		・診療所、薬局ほぼ再開、病院常勤医通常外来・DMAT、高齢者福祉施設の支援に移行 ・町保健医療福祉調整本部長を町に移行（1/26） ・支援体制縮小（1/26DPAT終了、1/30災害派遣ナース避難所駐在終了等） ・避難所巡回＋在宅訪問（75歳以上独居者）実施中、保健活動記録等の電子システム運用中 **・福岡DHEAT引継ぎ**	
活動方針	・全避難所の状況把握及び課題抽出（**感染症対策・衛生健康管理・食事・医療ニーズ・物品の確認**）	・感染症多発避難所支援 **・個別支援者の抽出** ・医療ニーズの把握	・医療的ニーズに抽出 ・個別支援者の抽出 **・避難所及び在宅の1.5次・2次・福祉避難所避難対象者の抽出**		**・避難所及び在宅の1.5次・2次・福祉避難所避難対象者の抽出**		・避難所及び在宅の1.5次・2次・福祉避難所避難対象者の抽出 **・生活不活発病の予防及び避難者の自発的行動と早期自立の支援(避難所・車中泊・在宅)**	
茨城DHEAT保健師チームの活動 ※継続的な内容	・県庁オリ、情報収集 ・DMATとの連携 ・DHEAT活動拠点確立 ・モバイルファーマシー導入（検討・調整） ・避難所現地指導 ・避難所の医療支援調整 ※統括PHN打合	・地区分担の導入 ・保健師の役割整理 ・指導項目作成 ・福祉担当者打合 （避難所のダンボールベット導入打合せ、WAT介入者調整） ・情報の整理（現在・今後）	・1.5次避難所対象者 （避難所巡回記載様式変更） **・支援保健師オリエンテーション** ・避難所感染対策状況確認 ・生活不活病予防導入検討 ・DPAT,DWAT等支援チームとの連携	・統括保健師、管轄保健所と課題抽出 ・避難所巡回の確認項目改変 **・栄養アセスメント方法の協議** **※※保健師、栄養士、DHEAT連絡会**	・避難所巡回頻度の調整(チェックリストの更新) **・Webexで保健師情報交換スペース作成** ・保健師の課題検討会の開始 ・保健師による在宅訪問の調整 ※※栄養連絡会 ・特養現地指導	・避難所栄養状態把握調査開始 ・保健師、町保健師の在宅訪問記録、避難所訪問記録等のDX化 **・保健師の在宅訪問準備及び開始** ※※栄養連絡会 **※※※通常業務再開に向けた方針の話し合い**	・保健師活動の進捗管理、情報の収集、更新、発信、評価 ・避難所巡回の定期評価・見直し(週1回) ・日赤との巡回調整 ※※栄養連絡会 **※※※通常業務再開検討** ・避難所巡回に同行・**避難所の感染症集団発生対策担当班調整**	・災害派遣ナースから保健師への引継 ・保健師派遣延長要請確認 ・保健活動記録等の電子システム入力方法の修正 **・避難所の健康管理で血圧自己管理品配付**(血圧管理手帳、血圧計設置) ・乳児健診再開調整状況確認 ・避難者名簿更新
活動の留意事項	・DHEAT活動の理解 ・避難者支援の窓口の統括PHNに判断が集中 **➡統括保健師との信頼関係の構築/負担減）** **➡医療を含む支援班のマネジメント** ・避難所情報の集約が不十分 ➡町災対本部の情報集約還元の支援が要（本県本部支援班等と情報交換）	**・保健師活動を踏まえ地区分担の導入** **➡円滑な引継ぎ、継続的な支援、作業の効率化** ・統括PHNの相談者 ➡町の活動方針を踏まえ意見交換 ・個別支援者リスト作成、継続支援者をデータ化 ➡町への移管を念頭に ➡情報の必要性を検討（現場活動を重視）	・町の活動方針を尊重した対応 ・支援チームの増加 ➡必要性や支援チームの役割を踏まえた分担 ➡情報の可視化	・日を追って変化する健康課題への対応 **➡活動内容の評価と新たな課題の抽出**	・保健所との課題の整理(毎日) ・在宅要支援者の訪問を検討 **➡避難所別の支援量の分析** ・保健師の増加 ➡避難所巡回と報告体制の効率化に係る町との調整	・保健師が集めた情報による課題と対応を統括保健師と検討 **➡活動報告のオンライン化を開始** ・在宅訪問の仕方等の調整 ➡町保健師と、保健師の共通認識 ・通常業務再開 **➡ロードマップ資料の提示**	・保健師活動しやすい環境整備 ・必要な情報の収集・分析、情報の可視化・発信 **➡DX化による保健師の業務軽減と効率化** ・保健師ミーティングで取組みの共有 **➡好事例等の横展開**	・フェーズ移行に伴う保健師活動の見直し **➡健康の自己管理** **・支援班の縮小** ➡統括PHNや担当PHNとの課題やニーズの共有、引継ぎ ➡丁寧な引継ぎ ・今後の保健活動の内容の検討 **➡中期長期の業務目標、計画の作成**
保健師チーム	福島県	堺市・大阪市 （加賀市）	奈良県・島根県・山口県					

8　今後の保健活動に必要なこと①

健康課題の解決

- 支援チーム（DMAT・DWAT・保健師チーム）の活動、組織体制等を理解している
  - ・円滑に各支援チームが連携した活動を行うようマネジメントするため
  - ・保健師チームの経験が避難所支援活動の理解に繋がるため
  - ・健康課題の解決に即した活動の継続のために必要な情報収集と分析が重要（専門職である支援チームの意見は重要）
- 避難所支援チーム（保健師チーム等）の活動報告、DHEATの支援ニーズの分析・評価のDX化
  - ・収集情報から速やかに把握したい課題やニーズ等の分析結果の抽出、業務負担の軽減、効率化のため
- 派遣元に後方支援（活動の分析、支援継続のための相談）体制の設置
  - ・情報の集約、分析は派遣先では活動できる時間が限られていることや、継続支援を行うための相談体制が必要

保健師としての能力

- 予防的な視点を持って、先の課題を想定して活動することが必要
  - ・フェーズ移行に伴う課題や想定外の事案に対する柔軟な対応（DHEATとして客観的、冷静な視点）
- コミュニケーション能力
  - ・短期間で被災自治体、他支援チームと信頼関係を構築し、協働していく必要があるため
- マネジメント力
  - ・災害時は被災者支援を継続的に行うため、様々な支援チームや、被災自治体等との活動の調整が主たる業務のため

8　今後の保健活動に必要なこと②

平時の対応

＜日頃からの関係機関との連携＞

➢ 医師会、薬剤師会等との日頃からの連携の重要性（信頼関係の構築）

・災害時は協働して活動するため、平時から信頼関係を構築し顔の見える関係であること、コミュニケーションが図れていることが必要（他県の支援は簡単に関係機関の長を参集することはできない。※　〇〇町の保健師　→　電話一本で参集）

➢ 自治体はリエゾンとなる管轄保健所や、組織内の連携の重要性

・様々な保健活動の判断が求められる被災自治体の**統括保健師への支援、相談関係の構築**

・**市町村内（防災・保健（医療）・福祉・障害）**での連携が最も必要になる

＜平時の保健活動の重要性＞

➢ 日頃から関わっている対象者や社会福祉施設など、災害時の対応を整える

・災害時の対応は平常時にきちんと整えておく必要がある（想定外の事象は当たり前）

➢ 受援体制の整備及び体制状況の確認等の必要性

・平時からの備え（各自治体の医療機関マップ、社会福祉施設の定員、福祉避難所受入人数など地区診断情報）が重要であり、これらの情報を活用した定期的な訓練や、研修等を実施する

➢ 若い世代への災害支援の教育・訓練、派遣経験の必要性

・応援及び受援ともに、初動をイメージして活動することができるようになるため

➢ 日頃の保健活動が重要

・保健師の能力として、予防的視点、コミュニケーション力、マネジメント力を養うためには、日頃の活動（地区診断、訪問、相談、研修会、会議等）をＰＤＣＡを回し行うことが重要。